

2019年3月期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2019年5月8日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

<投資家・アナリスト向け>

富士フイルムホールディングス株式会社 2019年3月期決算について、説明させていただきます。

2019年3月期決算のポイント

<p>営業利益を2,098億円とし 過去最高益を達成</p> <p>計画2,000億円を大きく上回り、前年比で70.1%増益</p>	
<p>事業別 業績 (前年比)</p>	<p>営業利益</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ メディカルシステム事業、バイオCDMO事業の増収に伴いヘルスケアが大幅増益(+67%) ✓ ドキュメント事業が、収益性の改善や構造改革効果により大幅増益(11.5倍)
<p>特記 事項 (4Q)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイオCDMO事業において、米バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社買収を発表 ✓ 1,000億円を上限とする自己株式取得を完了

2019年3月期 決算について、ポイントを説明します。

2019年3月期の業績は

営業利益が前年比7割増の大幅増益となり、過去最高益を達成しました。

これは、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業を中心とするヘルスケアや電子材料事業が大きく利益を伸ばしたこと、

さらに、ドキュメント事業において、収益性の改善や構造改革が順調に進捗していることが貢献しています。

第4四半期には、バイオCDMO事業において、米国バイオ医薬品大手のバイオジェン社からバイオ医薬品の製造子会社を買収することを決定しました。

また、1,000億円を上限とする自己株式の取得を完了しております。

2019年3月期 業績 (2018年4月～2019年3月)

(単位：億円)

	通期				
	修正後 ※ 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	為替影響	為替影響除く
売上高	24,334 100.0%	24,315 100.0%	-19 -0.1%	-203	184 +0.8%
営業利益	1,233 5.1%	過去 最高 2,098 8.6%	865 +70.1%	-85	950 +77.0%
税金等調整前 当期純利益	1,978 8.1%	過去 最高 2,128 8.8%	150 +7.6%	-45	195 +9.8%
当期純利益	1,442 5.9%	過去 最高 1,571 6.5%	129 +8.9%	-31	160 +11.1%
当社株主帰属 当期純利益	1,407 5.8%	1,381 5.7%	-26 -1.8%	-31	5 +0.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	322.62円	326.81円	4.19円	<その他増減要因(対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響：-12億円	
為替：米ドル	111円	111円	-		
為替：ユーロ	130円	128円	2円高		

※米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

3

次に、2019年3月期業績の詳細を説明します。

売上高は、ドキュメント事業において、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことにより、前年比で横ばいの2兆4,315億円となりましたが、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、再生医療事業、電子材料事業などが伸長しました。

営業利益は、各事業において収益性の改善を進めたことに加え、ドキュメント事業における構造改革の効果もあり、前年比70.1%増の2,098億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、昨年度に計上した和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益約200億円のマイナス影響がありましたが、前年比7.6%増の2,128億円、

当期純利益は1,571億円でいずれも過去最高となりました。

また、当社株主帰属当期純利益は、前年比1.8%減の1,381億円となりました。

セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	3,830	3,869	39 (+1.0%)	-41	80 (+2.1%)
ヘルスケア	4,430	4,843	413 (+9.3%)	-44	457 (+10.3%)
ヘルスケア&マテリアルズ	10,026	10,390	364 (+3.6%)	-63	427 (+4.3%)
ドキュメント	10,478	10,056	-422 (-4.0%)	-99	-323 (-3.1%)
合計	24,334	24,315	-19 (-0.1%)	-203	184 (+0.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	558	511	-47 (-8.4%)	-20	-27 (-4.8%)
ヘルスケア	197	333	136 (+67.0%)	-20	156 (+77.1%)
ヘルスケア&マテリアルズ	914	976	62 (+6.8%)	-21	83 (+9.1%)
ドキュメント	84	964	880 (11.5倍)	-44	924 (12.0倍)
全社/連結調整	-323	-353	-30 -	0	-30 -
合計	1,233	2,098	865 (+70.1%)	-85	950 (+77.0%)

続いて、セグメント別の状況について説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、

前年比1.0%増の3,869億円、

営業利益は、販促・宣伝費、研究開発費の先行投資などにより前年比8.4%減の511億円となりました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の売上高は、

前年比3.6%増の1兆390億円、

営業利益は、増収に伴う利益の伸長により、

前年比6.8%増の976億円となりました。

同部門のうち、ヘルスケアの売上高は

前年比9.3%増の4,843億円、

営業利益は、前年比67%増の333億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、

低採算ローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどにより

前年比4.0%減の1兆56億円、

営業利益は収益性の改善や構造改革効果により対前年11.5倍の964億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

		(単位：億円)	
売上高	対前年度	営業利益	対前年度
3,869	39 (+1.0%)	511	-47 (-8.4%)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。テイラースウィフトさんを起用したグローバルプロモーションなどで欧米を中心に売上が増加。
- ・ チェキの通期累計販売台数は1,002万台。
- ・ 電子映像では、「FUJIFILM X-T3」や2019年3月に発売した「FUJIFILM X-T30」が売上に寄与。また、2018年11月に発売した「FUJIFILM GFX 50R」は、大型センサーによる超高画質とレンジファインダースタイルが好評で販売が好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、車載用など各種産業用レンズの販売が堅調に推移。2019年2月に「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」を発表し、新たにプロジェクター市場に参入。ビジネス領域を拡大し、事業成長を図る。

**売上は、各事業で販売が堅調に推移し増加
営業利益は、販促・宣伝費や研究開発費の投入で減少**

イメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキ用フィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、累計でチェキの販売台数は1,002万台となりました。instaxグローバルパートナーである「テイラースウィフト」さんを起用したグローバルプロモーションなどで欧米を中心に売上が増加しました。付加価値プリントは、「WALL DECOR」の販売が好調に推移しました。

電子映像は、デジタルカメラ市場が縮小する中、当社売上は増加しました。昨年9月に発売した「FUJIFILM X-T3」、今年3月に発売した「FUJIFILM X-T30」などの販売が好調に推移。さらに、2018年11月に発売した、フルサイズの1.7倍の面積を持つ大型センサーを搭載した「FUJIFILM GFX 50R」は、超高画質とレンジファインダースタイルが好評で売上に寄与しています。

光学デバイスでは、車載用など各種産業用レンズの販売が堅調に推移しました。今年2月に「FUJINONレンズ」の光学技術を結集した「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」を発表。プロジェクター市場へ新たに参入するなど、ビジネス領域を拡大し、事業成長を図っています。

イメージング ソリューション部門は、各事業で販売が堅調に推移し、売上が増加しました。一層の拡販のための販促・宣伝費や次世代製品の研究開発費を投入したことなどにより、営業利益は減少しました。

セグメント別 概況

■ ヘルスケア&マテリアルズ
ソリューション

売上高		対前年度		営業利益		対前年度	
		(%)				(%)	
10,390	364	(+3.6%)	976	62	(+6.8%)		

(単位：億円)

- ・ メディカルシステムはX線画像診断や内視鏡などすべての分野で販売が好調に推移。バイオCDMOは、設備増強によりバイオ医薬品の開発・製造受託が増加。再生医療は、2018年6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニーFUJIFILM Irvine Scientific が寄与し、売上が大幅に増加。
- ・ ディスプレイ材料はタック製品に加えて、有機EL、タッチパネル分野の製品販売が堅調に推移。
- ・ 電子材料はフォトリソ周辺材料などの先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。
- ・ グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少。

メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、
再生医療事業、電子材料事業などが増収をけん引
営業利益は、各事業の収益性改善により増加

続いて、ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、
メディカルシステムは、X線画像診断や内視鏡などすべての分野で販売が好調に推移しました。
バイオCDMOは、昨年より実施している設備増強によってバイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が増加、
再生医療では、6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニー「FUJIFILM Irvine Scientific」が寄与し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、
ディスプレイ材料は、タック製品に加え、有機EL、タッチパネル分野の製品販売が堅調に推移しました。
電子材料は、フォトリソ周辺材料などの先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少しました。3月にインクジェットデジタルプレス「Jet Press 750S」の販売を開始。デジタル化が加速する商業印刷分野に対して、今後も画期的な製品を開発・提供し、事業成長を図っていきます。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門は、メディカルシステム事業やバイオCDMO事業、再生医療事業、電子材料事業などで売上を伸ばしたことにより増収。営業利益は、各事業の収益性改善などにより増加しました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
10,056	-422	(-4.0%)	964	880	11.5倍

- オフィスプロダクト分野では、セキュリティ機能を強化したカラー複合機の新製品「ApeosPort-VII C」シリーズの販売が、国内およびアジアにおいて堅調に推移。オフィスプリンター分野では、低採算のプリンタービジネスを縮小。
- プロダクションサービスは、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が欧米を中心に好調に推移。
- ソリューション&サービスは、BPO契約の新規獲得や業種・業務別ソリューションの販売などが堅調に推移。

ローエンドプリンタービジネスの縮小等により減収も、収益性の改善や構造改革の効果などにより大幅増益

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト&プリンターのオフィスプロダクト分野では、セキュリティ機能を強化し、2018年12月に発売したカラー複合機「ApeosPort-VII C」シリーズは、国内およびアジアにおいて販売が堅調に推移しました。オフィスプリンター分野では低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小により、販売台数が減少しました。

プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が欧米を中心に好調に推移しました。また、2019年1月にオフセット印刷の画質に迫る商業印刷向け高速ロール紙カラーインクジェットプリンター「11000 Inkjet Press」を発表。2019年2月より国内で販売を開始しました。これらの製品で商業印刷市場のデジタル化をさらに拡大します。

ソリューション&サービスは、BPO(Business Process Outsourcing)契約の新規獲得や業種・業務別ソリューションの販売が堅調に推移しました。新しい価値提供戦略「Smart Work Innovation」のもと、お客様の業務効率化や生産性向上を支援するサービスを順次提供し、サービス領域での更なる成長を目指します。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小などにより減収となりましたが、営業利益は、収益性の改善や構造改革の効果などにより、大幅増益となりました。引き続き、ソリューション&サービス、プロダクションサービスなど成長領域の拡大に努めるとともに、構造改革を進め、収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

(単位：億円)									
	17年 3月期末	18年 3月期末	19年 3月期末	対18年 3月期末		17年 3月期末	18年 3月期末	19年 3月期末	対18年 3月期末
現金 及び現金同等物	8,760	7,682	6,547	-1,135	長短社債 及び借入金	5,588	4,542	5,241	699
受取債権	6,358	6,191	6,178	-13	支払債務	2,579	2,485	2,384	-101
棚卸資産	3,392	3,613	3,745	132	その他流動 固定負債	4,484	4,915	4,073	-842
その他流動資産	1,838	1,122	839	-283	負債計	12,651	11,942	11,698	-244
流動資産計	20,348	18,608	17,309	-1,299	株主資本計	20,436	20,791	20,370	-421
有形固定資産	5,206	5,375	5,268	-107	非支配持分	2,245	2,196	2,079	-117
営業権	4,998	5,916	6,555	639	純資産計	22,681	22,987	22,449	-538
投資有価証券 その他資産	4,780	5,030	5,015	-15	負債・純資産 合計	35,332	34,929	34,147	-782
固定資産計	14,984	16,321	16,838	517	(単位：円)				
資産合計	35,332	34,929	34,147	-782	期末日 為替レート	17年 3月期末	18年 3月期末	19年 3月期末	対18年 3月期末
					米ドル	112	106	111	5円安
					ユーロ	120	131	125	6円高

次に、バランスシートについて説明します。

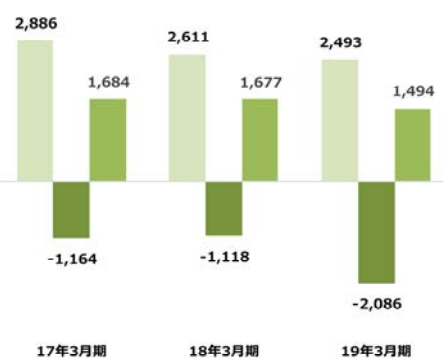
2019年3月期末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の減少などにより、2018年3月期末時点と比べ、782億円減の3兆4,147億円となりました。

負債は244億円減の1兆1,698億円、株主資本は421億円減の2兆370億円となりました。

流動比率は、33.6ポイント減の246.5%、負債比率は前期末と同じ57.4%、株主資本比率は0.2ポイント増の59.7%となりました。

キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）
 （単位：億円）



（単位：億円）

	17年3月期	18年3月期	19年3月期
当期純利益	1,472	1,442	1,571
減価償却費	1,176	1,276	1,299
受取債権の増(-)減(+)	34	413	49
棚卸資産の増(-)減(+)	49	-75	-123
営業債務の増(+)-減(-)	57	-200	-125
その他	98	-245	-178
営業活動によるC F	2,886	2,611	2,493
設備投資	-746	-630	-685
ソフトウェアの購入	-223	-185	-205
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	51	1,089	-244
事業買収	-13	-1,273	-843
その他	-233	-119	-109
投資活動によるC F	-1,164	-1,118	-2,086
フリー・キャッシュ・フロー	1,722	1,493	407
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー※	1,684	1,677	1,494

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および有価証券・投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

9

続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,493億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、Irvine Scientific Sales Companyとアイエスジャパンの買収などにより、2,086億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,494億円の収入となりました。

2019年3月期 決算説明会

富士ゼロックスにおける構造改革

10

次に、当社子会社の富士ゼロックスにおける構造改革について説明します。

富士ゼロックスにおける構造改革

(単位：億円)

	計画		修正計画		差異	
	構造改革費用等 一時費用	効果	構造改革費用等 一時費用	効果	構造改革費用等 一時費用	効果
2018年3月期	700	0	700	0	0	0
2019年3月期	250	270	161	310	-89	+40
2020年3月期	60	280	100	180	+40	-100
2021年3月期	0	0	20	60	+20	+60
合計	1,010	550	981	550	-29	0

	2019年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
構造改革費用等 一時費用	33	18	33	77	161
効果	10	75	95	130	310

※青字は実績

2019年3月期の構造改革効果は310億円。
2021年3月期に効果550億円の実現を目指す。

2018年1月31日に発表しました富士ゼロックスにおける構造改革について、進捗をご報告いたします。

2019年3月期の構造改革費用等一時費用は一部の施策を2020年3月期以降に繰り越したことにより161億円、効果は一部施策の効果が前倒しで実現したことにより310億円となりました。

尚、2019年3月期の実績を鑑み、2020年3月期以降の計画の見直しを実施しています。2020年3月期の構造改革費用等一時費用は100億円、効果は180億円、累計で490億円となります。

さらに、2021年3月期にも、構造改革費用等一時費用を20億円計上し、60億円の効果を見込み、累計で当初計画した効果550億円を実現します。

本構造改革を確実に実行することで、コスト削減を実現し、市場の変化・競争に耐える収益性・生産性を確保しつつ、新たな成長領域へ再投資し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立します。

以上、2019年3月期決算についてご説明いたしました。

2019年3月期 決算説明会

2020年3月期 業績予想

2020年3月期の連結業績予想について説明します。

2020年3月期 業績予想のポイント

前年比：増収・大幅増益で過去最高益を更新
中期計画比：営業利益目標を2,300億円から
2,400億円に100億円上乘せ

対前年	売上：ヘルスケアが牽引し、485億円の増収（+2.0%） 営業利益：ヘルスケアとドキュメントの収益力向上で 302億円の増益（+14.4%）
対中期計画 VISION 2019	営業利益： ✓ 中期計画の2,300億円から2,400億円に目標を変更 ✓ ヘルスケアは、中期計画目標400億円から440億円に変更 ✓ ドキュメントは、2021年3月期営業利益率目標10%を 1年前倒して達成予定 R O E：中期計画7.3%から7.5%に目標を変更 株主還元：中期計画通り、配当95円・自社株買い500億円を予定

13

2020年3月期 業績予想のポイントを説明します。

2020年3月期の業績予想は、

前年比増収・大幅増益で過去最高益を更新する計画です。

営業利益を、中期計画に対して100億円上乘せしています。

ヘルスケアの営業利益は、中期計画目標の400億円から440億円に変更し、

ドキュメントは、2021年3月期に目標としていた営業利益率10%を前倒して達成する予定です。

ROEについても中期計画の7.3%から7.5%へ目標を変更しています。

株主還元については、すでにお伝えしている通り、年間配当95円、自社株買い500億円の実施を予定しています。

2020年3月期 連結業績予想 (2019年5月8日時点)

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年3月期	対前年度	対中期経営計画
売上高	24,315 100%	26,000 100%	24,800 100%	485 +2.0%	-1,200 -4.6%
営業利益	2,098 8.6%	2,300 8.8%	過去 最高 2,400 9.7%	302 +14.4%	100 +4.3%
税金等調整前 当期純利益	2,128 8.8%	- -	過去 最高 2,450 9.9%	322 +15.2%	- -
当期純利益	1,571 6.5%	- -	過去 最高 1,770 7.1%	199 +12.6%	- -
当社株主帰属 当期純利益	1,381 5.7%	1,500 5.8%	過去 最高 1,550 6.3%	169 +12.2%	50 +3.3%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	326.81円	-	378.71円	+51.90円	-
ROE	6.7%	7.3%	7.5%	+0.8%	+0.2%
為替 : 米ドル	111円	110円	110円	1円高	-
: ユーロ	128円	120円	125円	3円高	5円安
銀価格 (/kg)	55,000円	62,000円	58,000円	+3,000円	-4,000円

* 2020年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円 ユーロ：8億円

14

2020年3月期の売上高は、前年比2.0%増の2兆4,800億円を計画しております。

営業利益は、前年比14.4%増の2,400億円を計画しています。

税金等調整前当期純利益は、前年比15.2%増の2,450億円、
当社株主帰属当期純利益は、前年比12.2%増の1,550億円を計画しています。

2020年3月期 セグメント別業績予想 (2019年5月8日時点)

(単位：億円)

売上高	2019年 3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年 3月期	対前年度	対中期経営計画
イメージング	3,869	3,800	4,000	131 (+3.4%)	200
ヘルスケア	4,843	5,000	5,100	257 (+5.3%)	100
マテリアルズ	5,547	6,200	5,600	53 (+1.0%)	-600
ヘルスケア&マテリアルズ	10,390	11,200	10,700	310 (+3.0%)	-500
ドキュメント	10,056	11,000	10,100	44 (+0.4%)	-900
合計	24,315	26,000	24,800	485 (+2.0%)	-1,200

*セグメント間取引消去後

営業利益	2019年 3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年 3月期	対前年度	対中期経営計画
イメージング	511	450	530	19 (+3.7%)	80
ヘルスケア	333	400	440	107 (+32.1%)	40
マテリアルズ	643	850	650	7 (+1.1%)	-200
ヘルスケア&マテリアルズ	976	1,250	1,090	114 (+11.7%)	-160
ドキュメント	964	950	1,190	226 (+23.4%)	240
全社/連結調整	-353	-350	-410	-57	-60
合計	2,098	2,300	2,400	302 (+14.4%)	100

15

こちらは、セグメント別の売上高・営業利益の業績予想です。

イメージングソリューションの売上高は、前年比3.4%増の4,000億円、
営業利益は、前年比3.7%増の530億円を計画しております。

ヘルスケア&マテリアルズソリューションの売上高は、前年比3.0%増の1兆700億円、
営業利益は、前年比11.7%増の1,090億円を計画しております。

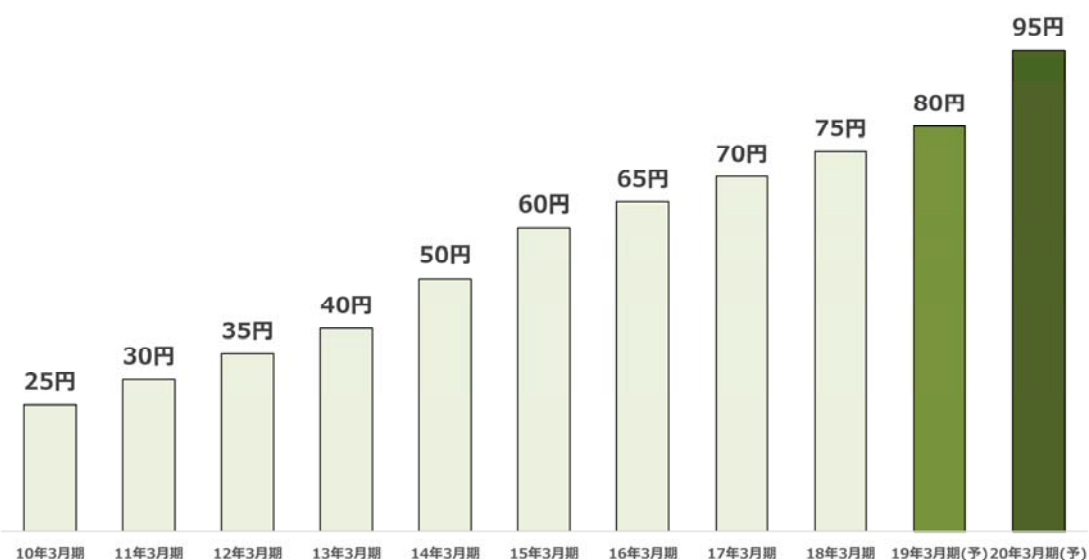
そのうち、ヘルスケア事業の売上高は、前年比5.3%増の5,100億円、
営業利益は、前年比32.1%増の440億円となります。

ドキュメントソリューションの売上高は、対前年0.4%増の1兆100億円、
営業利益は、前年比23.4%増の1,190億円を計画しております。

株主還元

■ 配当金

2020年3月期の配当金は、10期連続増配となる対前年15円増配の95円/株を予定



最後に株主還元についてご説明いたします。

配当金について、
2019年3月期の年間配当金は、対前年5円の増配となる、1株当たり80円、
2020年3月期の年間配当金は、10期連続増配となる対前年15円増配の1株当たり95円を予定しております。

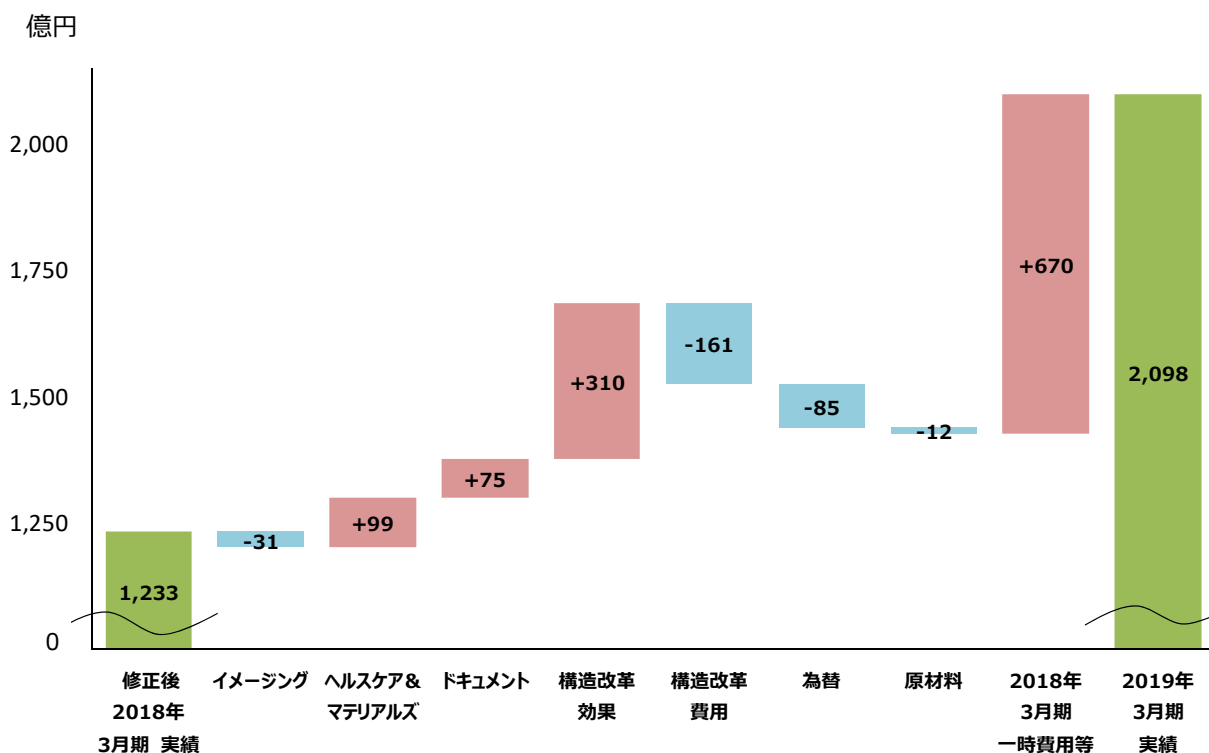
以上、2020年3月期通期業績予想についてご説明いたしました。

2019年3月期 決算説明会

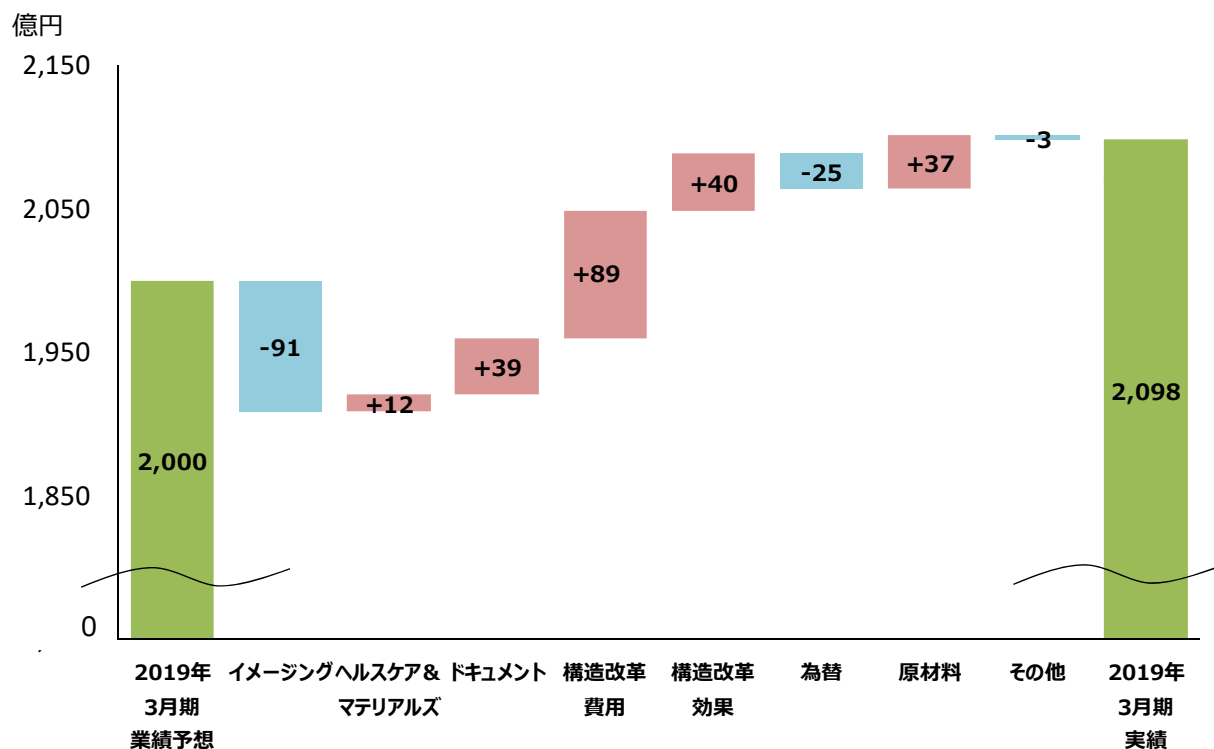
参考資料

2019年3月期 決算説明会 参考資料

営業利益増減分析(通期 対前年実績)



営業利益増減分析(通期 対業績予想)



19

4Q/通期 業績

(単位: 億円)

	4Q			通期		
	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期
売上高	6,237 100.0%	6,317 100.0%	80 +1.3%	24,334 100.0%	24,315 100.0%	-19 -0.1%
営業利益	1 0.0%	515 8.1%	514 -	1,233 5.1%	2,098 8.6%	865 +70.1%
税金等調整前 当期純利益	233 3.7%	582 9.2%	349 2.5倍	1,978 8.1%	2,128 8.8%	150 +7.6%
当社株主帰属 当期純利益	162 2.6%	370 5.9%	208 2.3倍	1,407 5.8%	1,381 5.7%	-26 -1.8%
為替 : 米ドル : ユーロ	108円 133円	110円 125円	2円安 8円高	111円 130円	111円 128円	- 2円高

<その他増減要因(4Q/通期対前年度)> 営業利益 原材料: -1億円 / -12億円

20

4Q/通期 業績

(単位：億円)

売上高	4Q			通期		
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	853	831	-22 (-2.5%)	3,830	3,869	39 (+1.0%)
ヘルスケア	1,339	1,414	75 (+5.6%)	4,430	4,843	413 (+9.3%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,743	2,801	58 (+2.1%)	10,026	10,390	364 (+3.6%)
ドキュメント	2,641	2,685	44 (+1.7%)	10,478	10,056	-422 (-4.0%)
合計	6,237	6,317	80 (+1.3%)	24,334	24,315	-19 (-0.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	59 [6.9%]	31 [3.7%]	-28 (-47.5%)	558 [14.6%]	511 [13.2%]	-47 (-8.4%)
ヘルスケア	133 [10.0%]	159 [11.1%]	26 (+17.9%)	197 [4.5%]	333 [6.8%]	136 (+67.0%)
ヘルスケア&マテリアルズ	316 [11.5%]	276 [9.9%]	-40 (-12.7%)	914 [9.1%]	976 [9.4%]	62 (+6.8%)
ドキュメント	-283 -	295 [11.0%]	578 -	84 [0.8%]	964 [9.6%]	880 (11.5倍)
全社/連結調整	-91	-87	4 -	-323	-353	-30 -
合計	1 [0.0%]	515 [8.1%]	514 -	1,233 [5.1%]	2,098 [8.6%]	865 (+70.1%)

21

4Q/通期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	546	538	-8 (-1.4%)	1 (+0.3%)	2,554	2,575	21 (+0.9%)	48 (+1.9%)
電子映像	205	199	-6 (-3.0%)	-1 (-0.6%)	888	906	18 (+2.0%)	31 (+3.4%)
光学デバイス	102	94	-8 (-7.8%)	-8 (-7.5%)	388	388	0 (+0.0%)	1 (+0.2%)
光学・電子映像	307	293	-14 (-4.6%)	-9 (-2.9%)	1,276	1,294	18 (+1.4%)	32 (+2.5%)
合計	853	831	-22 (-2.5%)	-8 (-0.9%)	3,830	3,869	39 (+1.0%)	80 (+2.1%)

*セグメント間取引消去後

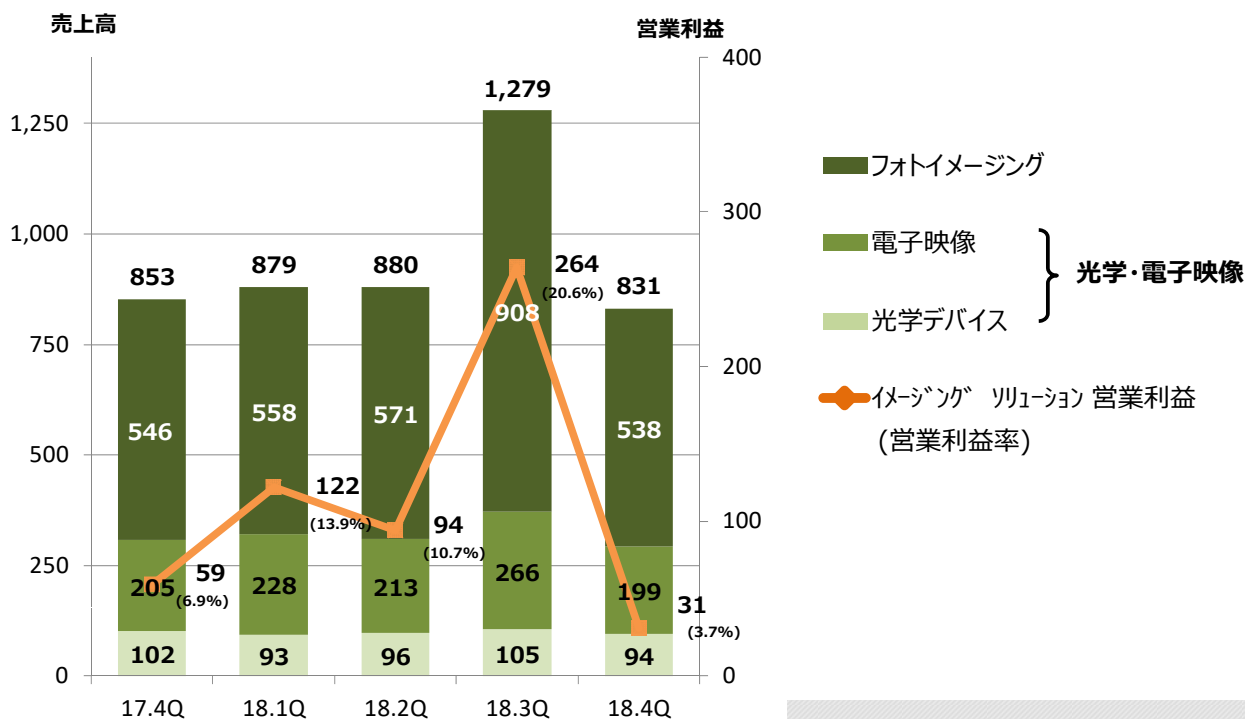
(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
イメージング	59 [6.9%]	31 [3.7%]	-28 (-47.5%)	-19 (-32.2%)	558 [14.6%]	511 [13.2%]	-47 (-8.4%)	-27 (-4.8%)

22

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション (単位: 億円)



4Q/通期 業績

■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

(単位: 億円)

売上高	4Q				通期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,339	1,414	75 (+5.6%)	95 (+7.1%)	4,430	4,843	413 (+9.3%)	457 (+10.3%)
ディスプレイ材料	213	212	-1 (-0.2%)	-1 (-0.2%)	944	982	38 (+4.1%)	38 (+4.1%)
産業機械/電子材料 ファインケミカル	446	454	8 (+1.8%)	7 (+1.5%)	1,730	1,798	68 (+3.9%)	70 (+4.0%)
高機能材料	659	666	7 (+1.1%)	6 (+1.0%)	2,674	2,780	106 (+4.0%)	108 (+4.0%)
記録メディア	100	116	16 (+15.3%)	15 (+14.5%)	404	388	-16 (-4.0%)	-15 (-3.8%)
グラフィックシステム/インクジェット	642	603	-39 (-6.1%)	-33 (-5.3%)	2,509	2,367	-142 (-5.6%)	-126 (-5.0%)
その他	3	2	-1	0	9	12	3	3
合計	2,743	2,801	58 (+2.1%)	83 (+3.0%)	10,026	10,390	364 (+3.6%)	427 (+4.3%)

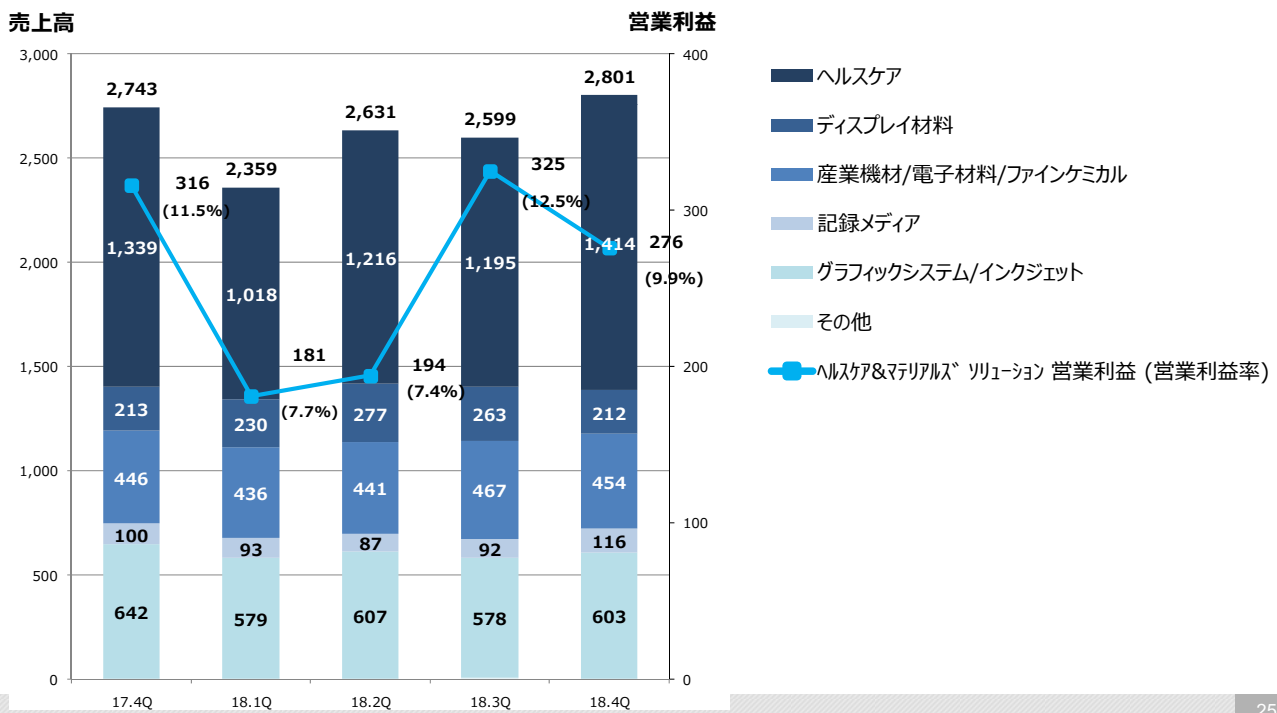
*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	133 [10.0%]	159 [11.1%]	26 (+17.9%)	36 (+25.4%)	197 [4.5%]	333 [6.8%]	136 (+67.0%)	156 (+77.1%)
ヘルスケア&マテリアルズ	316 [11.5%]	276 [9.9%]	-40 (-12.7%)	-34 (-10.8%)	914 [9.1%]	976 [9.4%]	62 (+6.8%)	83 (+9.1%)

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位: 億円)



4Q/通期 業績

ドキュメント ソリューション

(単位: 億円)

売上高	4Q				通期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	393	323	-70 (-17.9%)	-66 (-16.8%)	1,513	1,265	-248 (-16.4%)	-235 (-15.5%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,534	1,435	-99 (-6.5%)	-78 (-5.1%)	6,100	5,691	-409 (-6.7%)	-361 (-5.9%)
プロダクションサービス	329	326	-3 (-0.9%)	3 (+0.9%)	1,310	1,233	-77 (-5.9%)	-64 (-4.9%)
ソリューション&サービス	649	769	120 (+18.5%)	133 (+20.6%)	2,562	2,612	50 (+1.9%)	79 (+3.1%)
その他	129	155	26	30	506	520	14	23
合計	2,641	2,685	44 (+1.7%)	88 (+3.3%)	10,478	10,056	-422 (-4.0%)	-323 (-3.1%)

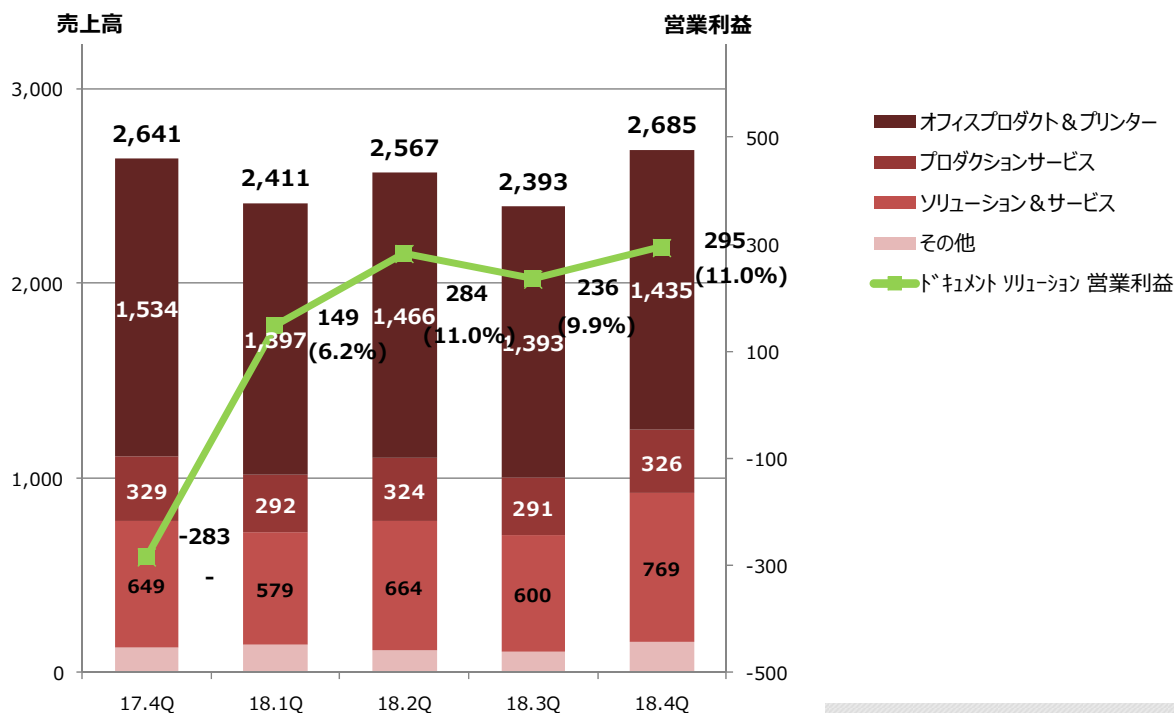
*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	-283	295	578	607	84	964	880 (11.5倍)	924 (12.0倍)
	-	[11.0%]			[0.8%]	[9.6%]		

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



27

国内・海外別連結売上高

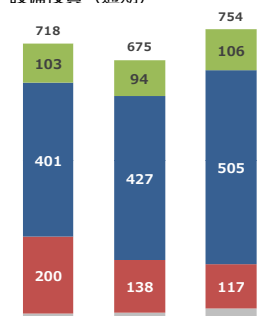
(単位: 億円)

	2018年3月期		2019年3月期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.4%	10,065	41.4%	10,065	0	(+0.0%)
米州	19.0%	4,628	19.1%	4,634	6	(+0.1%)
欧州	13.0%	3,153	13.0%	3,157	4	(+0.1%)
内、中国	12.2%	2,961	12.2%	2,965	4	(+0.1%)
アジア他	26.6%	6,488	26.5%	6,459	-29	(-0.5%)
海外	58.6%	14,269	58.6%	14,250	-19	(-0.1%)
合計	100.0%	24,334	100.0%	24,315	-19	(-0.1%)

28

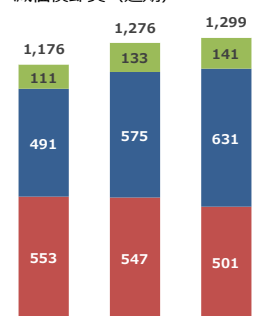
設備投資、減価償却費

設備投資（通期）



2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期

減価償却費（通期）



2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期

(単位：億円)

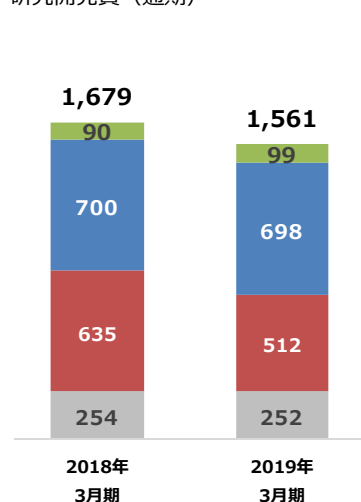
年度	4Q			通期			通期
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期(予想)
イメージング	29	32	39	103	94	106	
ヘルスケア&マテリアルズ	154	154	205	401	427	505	
ドキュメント	51	19	38	200	138	117	
コーポレート	5	7	7	14	16	26	
設備投資 ※	239	212	289	718	675	754	900
イメージング	23	35	35	111	133	141	
ヘルスケア&マテリアルズ	114	147	175	491	575	631	
ドキュメント	139	138	124	553	547	501	
コーポレート	5	3	9	21	21	26	
減価償却費	281	323	343	1,176	1,276	1,299	1,280
有形固定資産の減価償却費 ※	152	171	200	589	665	709	

※ ドキュメント ソリューション部門等のレンタル資産を除く。

- イメージング ソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- コーポレート

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（通期）



2018年3月期 2019年3月期

(単位：億円)

年度	4Q		通期		通期
	2018年3月期	2019年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期(予想)
イメージング	26	27	90	99	
ヘルスケア&マテリアルズ	189	189	700	698	
ドキュメント	214	120	635	512	
コーポレート	70	67	254	252	
研究開発費	499	403	1,679	1,561	1,550
<売上高比>	8.0%	6.4%	6.9%	6.4%	6.3%
販売費及び一般管理費	1,911	1,513	6,778	6,316	
<売上高比>	30.7%	24.0%	27.8%	26.0%	

- イメージング ソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- コーポレート

為替、原材料価格、人員

為替

(単位：円)

	2018年3月期					2019年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	111	111	113	108	111	109	111	113	110	111
ユーロ	122	130	133	133	130	130	130	129	125	128

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2018年3月期					2019年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	63	60	61	58	61	58	54	53	55	55

人員

(単位：人)

	2018.3末	2018.6末	2018.9末	2018.12末	2019.3末
連結	77,739	77,060	75,329	74,425	72,332

2020年3月期 連結業績予想 (2019年5月8日時点)

(単位：億円)

	2020年3月期 上期	2020年3月期 下期	2020年3月期
売上高	11,700 100%	13,100 100%	24,800 100%
営業利益	930 7.9%	1,470 11.2%	2,400 9.7%
税金等調整前 当期純利益	950 8.1%	1,500 11.5%	2,450 9.9%
当社株主帰属 当期純利益	580 5.0%	970 7.4%	1,550 6.3%

会計基準変更に伴う2018年3月期営業利益の修正

(単位：億円)

営業利益	修正前 2018年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
イメージング	126	113	261	60	560
ヘルスケア	-8	27	55	133	207
ヘルスケア&マテリアルズ	189	191	232	316	928
ドキュメント	117	174	114	-265	140
全社/連結調整	-74	-77	-80	-90	-321
合計	358	401	527	21	1,307

(単位：億円)

営業利益	修正後 2018年3月期									
	1Q	差異	2Q	差異	3Q	差異	4Q	差異	通期	差異
イメージング	125	-1	113	0	261	0	59	-1	558	-2
ヘルスケア	-12	-4	24	-3	52	-3	133	0	197	-10
ヘルスケア&マテリアルズ	185	-4	186	-5	227	-5	316	0	914	-14
ドキュメント	104	-13	162	-12	101	-13	-283	-18	84	-56
全社/連結調整	-73	1	-79	-2	-80	0	-91	-1	-323	-2
合計	341	-17	382	-19	509	-18	1	-20	1,233	-74

33

パイプライン (2019年5月8日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph III
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph II
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I / II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリポソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス(FKB)のFKB327(アタリムマブバイオシミラー)は、欧州発売(Mylan社と販売提携)、その他申請準備中。FKBとアストラゼネカ社のJVのFKB238(ベバシズマブバイオシミラー)は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

34

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス 統合報告書2018

https://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2018年 3月 イメージングソリューション事業説明会
- 2019年 1月 医薬品・バイオCDMO・再生医療事業説明会
- 2019年 2月 ESG説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>